



櫛の梢から

こずえ
けやき

探究的・体験的な「ふるさと科」授業を実践しています

吉里吉里学園学校公開研究会で探究的な「ふるさと科」授業を公開

吉里吉里学園では「自ら課題を発見し学び続け、たくましく生きようとする児童生徒の育成」の研究テーマのもと、昨年度から「ふるさと科」授業の研究実践を積み重ね、11月1日（水）に行われた研究会では3学年、5学年および9学年の「ふるさと科」授業を公開しました。これまでの体験的な学習に加え、「ふるさと科」授業での探究的な学習の姿を、教職員をはじめとする町内外から訪れた多くの参観者に提案する機会となりました。

また授業後は、元教育長の伊藤正治さんから「ふるさと科の誕生と未来」について講演いただき、震災後の町教育の復興と重ね合わせて、これからの大槌町を支える子どもたちや教職員への熱い激励をいただきました。その後の分科会では、探究的な「ふるさと科」の活動を通して成長を願う子どもたちの姿について、熱心な協議が行われました。

小学部公開授業



3学年「自分の気持ちを見つめ、表現する」(こころの授業)



5学年「吉里吉里の海を守る」(探究活動)

中学部公開授業



9学年「吉里吉里と私」(個人探究)

大槌学園「ふるさと科」では、避難所運営学習、稲刈り・脱穀体験を行いました

大槌学園9学年では、町防災対策課、町社会福祉協議会をはじめ40名を超える地域関係者にご協力いただき、11月9日（木）に避難所運営学習を行いました。地震発生から1時間の制限時間で、避難者が訪れる避難所での初期対応の模擬訓練を通して学習を深めました。随時、臨機応変な対応が求められる事態が発生する想定の中、地域関係者の協力を得ながら子どもたちが主体となって、より良い方法を考えながら避難者に対応する経験を通して、災害発生時の対応方法について学ぶとともに、未知の状況への対応力や他者とのコミュニケーション能力、また、地域とのつながりの重要性を改めて感じる機会となりました。



また、5学年では小鉾地区の水田をお借りし、春先には田植え、秋には稲刈り・脱穀を行い、大槌町でお米ができるまでの過程を体験し学びました。



大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！



大槌高校HPやnoteでも学校生活の様子を発信しています！

復興研究会他校交流 ～岩泉高校×大槌高校～



10月19日（木）に、岩泉高校の1年生の皆さんが来校しました。復興研究会の他校交流班&生徒会メンバーと一緒に、正解のない2択について互いに意見を交わすクロスロードゲームをして交流しました。

日常の選択や、災害時の行動選択について意見交換をしました。皆さん自分事として真剣に考えて意見を言っていました。

選択肢は2つあり、それぞれの選択肢におけるメリット・デメリットを考え、どういう理由でそれを選択したのか、それは人それぞれです。

今回の交流は、お互いに「この場合にする？」という普段考えないことを思考し、さまざまな意見に触れる素敵な機会となりました。

2年生マイプロジェクト中間発表会

11月8日（水）に2年生マイプロジェクト中間発表会を実施しました。

今回は高校ではなく、沢山集会所、安渡分館、赤浜分館、吉里吉里分館、おしゃっちをお借りし、それぞれの場所で地域の皆さんに向けて発表することができました。

中間発表ではありませんが、今まで学んできたことを聞いていただき、質問してもらったり、感想を言ってもらったりすることで、今まで考えたことがなかった視点に気づけた生徒も多かったようです。

このように地域の皆さんのご協力のおかげで、生徒は学校では得られない学びを得ることができました。また、聴き手がいることで、誰かに表現することの難しさも実感することができ、2月の最終発表までについていけばよいのかについて思考を巡らせている様子がありました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。



生徒・教職員の感想

- 最初は緊張したけれど、地域の人やグループの人に今までやってきたことを詳しく伝えられた。地域の人に意見や質問をいただいたことで、自分もやりがいをもてる機会となった。(生徒)
- 中間発表をしてみて自分と他の人のアクションの違いや、発表の仕方の違いなどがよく分かる良い機会でした。地域の人たちとも交流できて、応援の言葉をもらうことができとても嬉しかったです。(生徒)
- 赤浜分館で韓国料理を作って食べたいという声をいただいたのでやってみたいと思いました。韓国料理に興味をもってくれる人が多くてうれしかったです。(生徒)
- 小さいときから生徒のことを知っているという地域の人もいたので、成長した姿をフィードバックしていた。終わった後も、交流が生まれていて、生徒もこの地域なら安心して学びのチャレンジができると思った気がします。(教職員)
- 生徒の震災前後の街並みの変化の発表を聞いて、地域の人から、震災前の吉里吉里の街並みを教えてもらっていた。(例えば、元々は丁目によって高さが違ったから、そこから見える街並みも今とは全く違う。今は盛り土をして同じ高さになってしまった) また、前は道に名前が付いていて、それも一つ街並みを表すものだった。このようなことも、地域の人にしか分からないこと。とても学びになる時間でした。(教職員)